

令和5年度 全国学力・学習状況調査の結果（概要）

加古川市立氷丘中学校

- 1 実施日時 令和5年4月18日(火)・4月28日(金)
- 2 対象 3年生
- 3 調査事項 教科調査(国語・数学・英語)、質問紙調査
- 4 結果分析

(1) 学力調査の結果から

- 国語 ・平均正答率は全国・県の結果と同程度である
・「知識及び技能」に関する問題の正答率が全国・県の平均を大きく上回り、特に「我が国の言語文化に関する事項」の正答率が高い
課題→「文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考える」こと
 - 数学 ・平均正答率は全国・県の結果を上回っている。特に「数と式」「図形」の問題は、全国・県の平均を大きく上回っている
・「知識及び技能」、「思考・判断・表現」ともに全国・県の結果を上回っている
課題→「文章を読み取り、論理的に考察し、数学的に説明する」こと
 - 英語 ・平均正答率は全国・県の結果を上回っている
・特に「読むこと」「書くこと」「話すこと」の問題で、全国・県の平均を大きく上回っている
課題→「社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書く」こと
- ◇3教科とも3つの問題形式(選択式、短答式、記述式)のうち、選択式と短答式の問題は全国・県の平均を上回っている。記述式は、数学・英語で全国・県の平均を上回っている。

(2) 質問紙調査の結果から

- 国語・数学・英語で学習したことが将来社会に出たときに役に立つと考える生徒の割合は、全国・県の平均より高く、英語では特に顕著である
 - 下校後の学習時間は全国・県の平均より長く、部活動の参加率や、塾・家庭教師等の利用率が全国・県の平均より高い
 - パソコンやICTに興味を持つ生徒の割合は多く、勉強の役に立つと考えている生徒の割合が高い
 - いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う生徒の割合がとても高い
 - 困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できると答えた生徒の割合が全国・県の平均より高い
 - 友達関係に満足している生徒の割合が全国・県の平均より高い
 - 学校に行くのが楽しいと思う割合が全国・県の平均より高い
 - 人の役に立つ人間になりたいと思う生徒の割合がとても高い
 - 地域や社会をよくするために何かしてみたいと考えている生徒の割合は全国・県の平均より高い
- △話し合う活動に取り組んでいると答えた生徒の割合は全国・県の平均よりも低い
△パソコンやICTを活用した学習の割合は全国・県の平均よりも低い
△読書が好きな生徒の割合が全国・県の平均よりも低い。昨年度は高かった
△新聞を読む習慣のない生徒が約8割で、全国平均とほぼ同程度である
△将来の夢や希望を持っていると答えた生徒の割合は全国・県の平均よりもやや低い

5 まとめ

今年度の3年生も、全国・県の平均と比べてよく勉強する傾向が見られた。英語・数学の平均正答率が全国・県を上回る結果に繋がっていると考えられる。一方、根拠を明確にして書いたり、理由を説明したり、多面的・総合的に分析したりすることに課題が見られた。「協同的探究学習」を行う授業やICTを活用した学習、話し合う活動など、授業改善の必要があると考える。

また、先生との信頼関係が築けていると思う生徒の割合が高い。先生が自分のよいところを認めてくれていると感じる生徒も多く、自己肯定感の高さに繋がっていると考えられる。

この調査結果を教職員が共有し、良かったことは継続するとともに、課題については改善に向けて学校全体で取り組んでいく必要がある。